

2025

北鹿の学び舎から⑧

— 学校紹介・活躍する修了生 —

ものづくり全般の土台に

今回は、秋田職業能力開発短期大学の第4期生（平成9年度修了）で、現在は地元企業の機械加工エンジニアとして活躍されている佐藤憲昭さんをご紹介します。

佐藤さんが所属するニューロング技研株式会社は、北秋田大野台工業団地に本社を構え、印刷・製紙・スリッター

・製袋機械などで使用され、精度が求められる「エアシャフト」の設計・製造を主にしています。エアシャフトとは、印刷機や製袋機で使用するロール状の紙の送り出し・巻き取りを行う重要な部品です。この部品には高い精度と設計力が求められ、同社の技術力は国内企業から高く評価されています。そのため最近では、他社製品の修理まで依頼されているそうです。

佐藤さんは、工業高校の電気機械科を卒業し、当校の生産機械技術科に入学されました。祖父が建具屋さん、実家の向かいが鍛冶屋さんだったことから、幼少期に刃物の焼き入れ、刃物と柄の組立てと

いった経験をし、幼い頃からものづくりが身近にありました。そのため、機械加工・組立・保全を学べる当科に強く魅力を感じたことと、技能・技術を習得して地元で貢献したいとの思いから、当校に入校されました。入校当初を振り返っていたら、「技術の習得はもちろんですが、考え方や安全衛生といったものづくり全般の土台を作り上げることができました」

「当時の厳しい先生方が伝えたかったことは、様々なことを経験した今ならわかる」と仰っていました。

現在、佐藤さんの業務は、円筒研削盤を使ってシャフトの外周を研磨しており、精度

は1000分の1といった高いレベルが求められ、軸のぶれも許されない製品組立前の重要な工程を担っています。「今のチームに配属されて6年になり、部署では中核的な人材として、保有する設備は全て扱うことができ、OJT（職場内訓練）にて後輩への指導を行っている」とのことでした。このような企業活動を通じて地元貢献のみならず、私生活では、「地域クラブ活動」に参画されており、スポーツの指導者や審判員として小・中・高校へのサポートといった地元の教育環境でのサポート活動もされています。

仕事について伺うと、「やり始めると研磨の奥深さに魅了されました。精度の高いものづくりを目指し、不良品が出ないように適正範囲で様々な加工条件を試し、結果である精度データを整理し、その

蓄積から品質を高めている」と話してくれました。最近では加工時間の短縮化による利益率向上に力を入れているそうです。さらに、人材育成では指導というよりも互いに情報・意見交換しながらチームの多能工化を進めることで後輩が業務範囲を着実に広げているようです。これは企業人

としての経験だけでなく、スポーツを通じて人材育成の経験が、結果的に仕事にも活かされていると感じているそうです。

また、インタビュー時に1枚の写真を見せていただきました。写真には、佐藤さんと当科特任教授の田山先生が並んで写っていました。当校の近くで用事があった際に、「田山先生に会いに行こう」とふと立ち寄り、近況報告や思い出話などをされたそうです。このように修了生がよく来てくれるのは、当校の特徴である少人数教育や、就職支援や各種相談・援助など学生に寄り添うサポートによるものであると思っております。当校では就業直前の教育機関として、技能・技術だ



佐藤さん⑥と田山先生の思い出話に花が咲いた一枚



自社製品のエアシャフトを手にする佐藤さん

秋田職能短大 生産機械技術科 能開准教授 横山雅紀